

【事業実績】

1. 事業の質向上のための取り組み

①先進事例調査 開催日：2024年8月30日(金) 訪問先：日本科学未来館 参加者：実行委員会メンバー
日本科学未来館のアクセシビリティ推進プロジェクトの概要を聴講し、意見交換をした後、館内を視察した。

意見交換からねりまフォーラムは地域に根差した活動ができることが強みである。ハード面だけでは限界があり、テクノロジーですべて解決することはできない。受け入れる姿勢と対話が最も大切である。

2. 障がいのある方の文化芸術体験へのアクセシビリティを高めるために

②地域で活用するツールをつくるためのインクルーシブデザインワークショップ

開催日：2024年9月9日(月)／10月16日(水) 会場：練馬区立貫井図書館／ちひろ美術館・東京

参加者：実行委員会メンバー ファシリテーター：山田小百合(NPO法人Collable代表理事)

視覚障害者、聴覚障害者、車いすユーザーとともにフィールドワークと課題検討を行った。

リードユーザーの声自分自身が心理的なハードルを持っていることに改めて気づいた。

参加者の声配慮をしているつもりだったが、理解が足りていない点や、すぐに改善できることに気づいた。

③手話通訳つきギャラリートーク

開催日：2024年12月7日(土)／12月8日(日) 会場：練馬区立美術館／ちひろ美術館・東京

手話通訳：和田みさ、丸山垂穂、瀬戸口裕子 参加者：延べ19名／15名

参加者の声解説を聞くことで、作品の理解が深まった。このような機会を増やしてほしい。

手話通訳者の意見もっと双方向のコミュニケーションの時間を持てると良かった。

⑥障害のある方とともに美術館を楽しむためのワークショップ

開催日：2024年12月23日(月) 会場：ちひろ美術館・東京 参加者：More Timeねりま、

3B!!!s通所者11名、大森梓(NPO法人障がい児・者の学びを保障する会代表理事)、スタッフ3名

ワークショップリーダー：NPO法人エイブルアートジャパンみんなでミュージアム 柴崎 由美子(代表理事)、鹿島萌

子、渡邊遥

練馬区内にある軽度知的障害者の学びの場「More Timeねりま」および作業所「3B!!!s」に通所する方との対話会や事前の説明会を通して交流したうえで、美術館に来館してもらった。

成果地域の知的障害者と交流を深められた。意見交換のうえ、初めてソーシャルストーリーとアクセス動画に取り組んだ。このワークショップをきっかけに、その後、ひとりで来館してくれた方がいた。

大森さんの所感美術や美術館に感心が薄い人もいたが、美術館側がクイズ形式の「ミッションシート」を用意してくれたので、皆集中して取り組み、良いきっかけづくりになった。



3. 子どもとその保護者を対象にした文化芸術体験の創出

⑤出張「子育ての広場」開催日：2024年9月18日(水)・11月19日(火) 会場：ちひろ美術館・東京

参加者：乳幼児と保護者 合計15組 保育士派遣：特定非営利活動法人 手をつなご

地域で活動をする保育士と気軽に交流し、美術館に親しんでもらった。

成果73%が初来館の親子だった。絵本や美術に親しむ動機づけとなった。

参加者の声他のお母さんと交流できて良かった。子連れでも美術館に来られて嬉しい。

⑨⑩あかちゃん・子どものための鑑賞会 開催日：2024年7月28日(日)／8月18日(日)

会場：ちひろ美術館・東京 講師：富田めぐみ(NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表理事)

参加者：8組23名／8組23名

参加者の声あかちゃんもこんなに真剣に展示を見られることに感心した。他の子どもの感想を聞けて、子どもそれぞれの見方があることを知ることができて良かった。

⑪子どものためのワークショップ「ひとりひとりの1ページ こうさくえほんをつくろう」開催日：2024年12月21日(土) 会場：ちひろ美術館・東京 講師：富田めぐみ(NPO法人赤ちゃんからのアートフレンド

シップ協会代表理事)

参加者：3～9歳の子どもとその保護者5組11名（外国にルーツがある方を含む）

成果やさしい日本語でチラシをつくり、区報にも告知を出したため、取り組みの認知が広がった。通訳や英語ではなくやさしい日本語でコミュニケーションをとることができた。

参加者の声みんなで物語をつくったことが楽しかった。

4. 認知症や高齢者と文化芸術体験をつなぐために

⑦認知症のある方とご家族・介護者を対象とした鑑賞会「アトリップ：アートの旅」

開催日：2024年11月20日（水） 会場：ちひろ美術館・東京 講師：松尾真紀子

（一般社団法人アーツアライブ認定アートコンダクター）参加者：4組9名

参加者の声ひさしぶりに外出するきっかけになった。ゆっくり見られて良かった。

⑧認知症とアートに関する講演会「アート×認知症：アートと認知症の親和性」開催日：2025年2月2日（日） 会場：練馬区立南田中図書館（対面）、石神井図書館・貫井図書館（サテライト）講師：林容子（一般社団法人アーツアライブ代表理事）参加者：対面24名、サテライト13名

参加者の声アートが脳に及ぼす効果を理解できた。機会があれば実際に鑑賞会に参加したい。

5. 社会包摂とウェルビーイングを啓発するために

④絵本画家による講演会「誰もがみんな子どもだった いわさきちひろと松本春野の絵本の世界」開催日：2024年10月13日（日） 会場：練馬区立石神井図書館（対面）、貫井図書館・南田中図書館（サテライト）講師：松本春野（絵本作家）参加者：対面29名サテライト22名 同室保育利用5名、手話通訳つき

参加者の声保育スペースがあり安心して聴くことができた。絵本は子どもだけのものではなく誰かと共有できる良さがあるという話が印象に残った。絵本の世界をより深く身近に感じた。

⑫ソーシャルインクルージョンをテーマにしたワークショップ「紙の葉っぱをつくろう with「みんな なかまよ」展」開催日：2024年11月30日（土）会場：ちひろ美術館・東京 講師：塩瀬隆之（京都大学准教授・展示企画協力）、佐藤蒔（子どもの手づくりおもちゃ作家）参加者：小学生とその保護者16組43名 実際の葉っぱを観察して絵の具で描き紙の標本をつくるワークショップ。展示会の企画協力者で、インクルーシブデザインを専門とする塩瀬氏による、大人と子どもそれぞれを対象にしたレクチャーも組み込んだ。

参加者の声身近な葉っぱからアートと平和が結びつく内容がおもしろかった。家族で平和について考えるきっかけになった。

⑬ねりまフォーラムの取り組みを広めるための記録動画 <https://youtu.be/BsN8uvA06zg>

企画・監修：実行員会 撮影・編集：株式会社 IMAGICA コスモスペース 手話付加映像：今井ミカ 翻訳出演：那須映里、手話監修：那須善子

成果インクルーシブデザインワークショップのようすを記録し、手話通訳をつけた映像として編集してウェブ上で公開し、ねりまフォーラムの活動を広く知っていただく機会をつくった。

⑭音声での道案内機能付き地図 ナビレク 製作：株式会社アメディア

ちひろ美術館・東京（往路）<https://navirec.yomube.co.jp/44018/>（復路）<https://navirec.yomube.co.jp/44447/>

石神井図書館（往路）<https://navirec.yomube.co.jp/43893/>（復路）<https://navirec.yomube.co.jp/43893/>

南田中図書館（往路）<https://navirec.yomube.co.jp/43889/>（復路）<https://navirec.yomube.co.jp/44466/>

成果駅からの道がわかりづらい施設に関して、地元の事業所と協働して音声案内を作成することができた。



あかちゃんのための鑑賞会



絵本画家の講演会



認知症の方を対象とした鑑賞会



ワークショップ「紙の葉っぱをつくろう」